



学校だより

6月号



ある雨の日に

副校長 神田 智昌

先日、子ども達の登校時に、正門へつづく歩道を歩行の指導とあいさつで声をかけていました。その日は、前日からの雨が残り、登校時刻に小雨が降ったりやんだりしていました。多くの子どもが傘を差さない中、傘を差している子がいました。前から来る人とすれ違うときに、その子は、傘をつぼめてすれ違っていました。歩道は反対方向の人とすれ違うことがやっとなる道幅です。傘を普通に差していたら傘がぶつかっていたかもしれません。その子は、周りの状況や相手のことを考えて、さっと行動に移すことができたのです。

研究者から史料的な裏付けがないと指摘されていますが、相手の立場に立った行動を考える例として「江戸しぐさ」という人の行動があります。

江戸しぐさであるとされる例

【傘かしげ】 雨の日に道ですれ違う際、お互いに傘を外側に傾け、相手が濡れないようにすること。



【肩引き】 道で人とすれ違うとき、外側の肩を引き寄せて身体を斜めにしてすれ違うこと。

【こぶし腰浮かせ】 船などで後から人が来たときに、こぶしひとつ分腰を浮かせて席を詰めること。

他にもたくさんありますが、中には既に行っているものもあると思います。周りの状況や相手の立場を考えるようになると、自分のとるべき行動が変わってくるのではないのでしょうか。

都田西小学校の学区には狭い歩道が多くあり、車に気を付けなければいけない歩道や交差点も多くあります。学校では、状況を考えて行動ができ、安全に登下校ができるように指導してまいります。登下校の安全に対しては、毎日、通学路を見守ってくださっている各地区の旗振りの保護者の皆様、佐江戸お散歩隊の皆様、学援隊の皆様には、とても感謝しております。今後とも安全な登下校のためにご協力をお願いいたします。